

うっしっしいー情報2023

3月市



豊岡農業改良普及センター

3月8日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が74万1千円、雌が74万6千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	5	0.969	739,640	2	0.834	652,300	7	714,686
丹波篠山	1	0.941	852,500	1	0.846	592,900	2	722,700
丹波	23	0.932	711,939	17	0.871	724,447	40	717,255
朝来	6	1.049	842,050	3	0.979	834,900	9	839,667
播磨	23	0.930	720,883	8	0.859	751,713	31	728,839
美方郡	56	0.951	738,296	42	0.873	767,145	98	750,660
豊岡	16	0.997	795,850	18	0.852	707,300	34	748,971
養父	13	0.984	811,715	18	0.836	851,828	31	835,006
摂津・神戸	10	0.964	763,730	12	0.856	663,942	22	709,300
県北C	14	0.936	638,707	6	0.868	623,883	20	634,260
市場全体	167	0.956	741,123	127	0.863	745,878	294	743,177

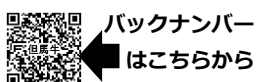
3月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	15	0.980	832,553	18	0.860	845,350	33	839,533
2	丸春土井	18	0.975	809,661	7	0.879	835,057	25	816,772
3	丸池土井	16	0.970	745,869	22	0.866	783,350	38	767,568
4	山伸土井	18	0.984	741,094	7	0.929	815,414	25	761,904
5	照忠土井	12	0.977	767,067	8	0.837	731,500	20	752,840
6	丸明波	4	0.903	763,125	7	0.837	741,557	11	749,400
	総計	167	0.956	741,123	127	0.863	745,878	294	743,177
7	照和土井	17	0.993	747,353	14	0.854	665,264	31	710,281
8	忠味土井	23	0.895	685,539	17	0.852	704,324	40	693,523
9	藤彦土井	10	0.960	721,490	7	0.892	638,314	17	687,241

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸若土井	A	A++	A++	A	A++	A++ → A+
2	丸春土井	C	B	C	B	B	A++ → A+
3	丸池土井	D	A++	D	A → B	A++	A++
4	山伸土井	A+ → A	A++	C → D	A+	A+	A
5	照忠土井	C	A++	A	A+	A++	A
6	丸明波	D	A+	D	C	A	A+
7	照和土井	A+	A	B	A	A	A
8	忠味土井	B	A+	A	B	A+	A+
9	藤彦土井	A++ → A+	A+ → A	C	D	D	A+ → A



バックナンバー
はここから

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和5年1月現在)

良い子牛は良い母乳から！！

～授乳期の母牛管理が子牛を健康に育てる～

1. はじめに

「生まれた子牛がよく下痢をして…」と悩まれているそこのあなた…。その下痢は何が原因でしょうか？細菌・ウイルス・寄生虫といった病原体が原因となる下痢でしょうか？下痢が発生したとき子牛にばかり目がいくかもしれませんが、実は、子牛の下痢には授乳期の母牛管理が大きく影響している場合があります。それは「母乳性白痢」と呼ばれる母乳が原因となる下痢です。今回はこの母乳性白痢に注目し、子牛を健康に育てるための母牛管理について考えてみましょう。

2. 授乳期の母牛はたくさんの養分が必要！

繁殖ステージの中で、分娩2ヶ月前と授乳期は自身の維持への養分に加え、胎仔への養分、授乳への養分がそれぞれ必要となるため特に養分要求量が高くなります。「分娩前後の増飼が大事」と言われるのはこのためです。では、分娩2ヶ月前と授乳期ではどちらの養分要求量が高いのでしょうか？日本飼養標準（2008年版）に基づいた養分要求量の比率を見てみましょう。維持期を100%とした場合、分娩2ヶ月前では、乾物は117%、粗タンパク質は144%、可消化養分総量は127%であり、授乳期では、それぞれ144%、206%、163%となります（図1）。乾物と比較して、授乳期では粗タンパク質、可消化養分総量の増給比率が高くなるため、より多くの養分を効率的に給与する必要があります。

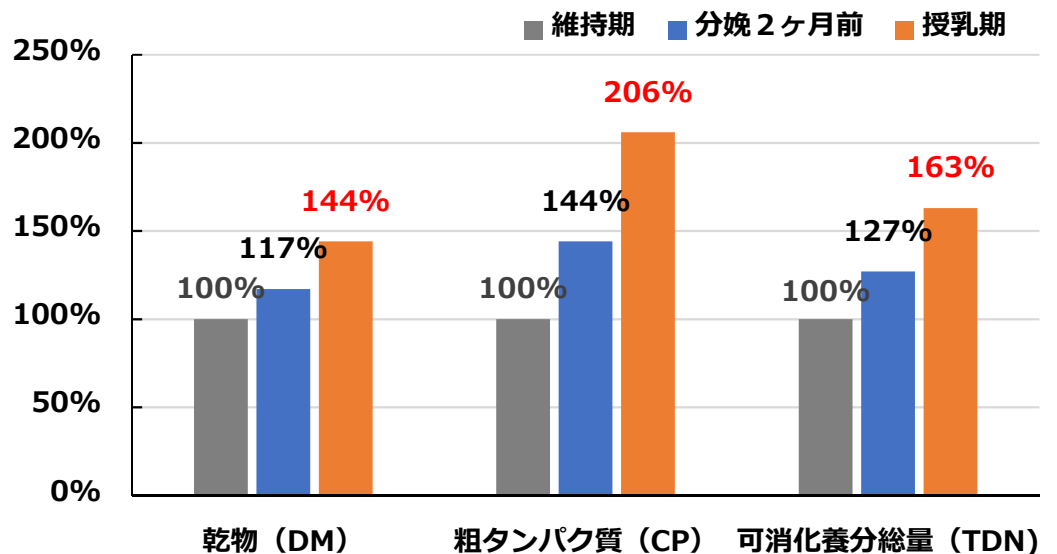


図1 維持期に対する養分要求比

※母牛の体重450kg、授乳期の泌乳量5.3kgとして、日本飼養標準（2008年版）に基づき養分要求量を算出

3. 母牛のエネルギー不足は子牛の下痢を引き起こす！？

授乳期の母牛管理が子牛にどのような影響を与えるのでしょうか？母乳の乳質は、母牛のエネルギー不足や飼料内容の変化などにより変動します。特に今回は、母牛のエネルギー状態に注目してお話したいと思います。

先述したとおり授乳期は繁殖ステージの中で最も多くエネルギーが必要な時期です。そのため、授乳期の増飼を怠ると、エネルギーが不足する可能性があります。しかし、エネルギー不足に陥ったとしても、母牛は子牛に母乳を飲ませるため、体脂肪を燃やしてエネルギーを作り、乳生産を行おうとします。この時、摂取飼料が不足した状態では、脂肪が不完全燃焼してしまい「燃えカス（ケトン体）」が発生し、血液を介して母乳に移行します。この燃えカスが移行した母乳はいわゆる「ケトン乳」と呼ばれ、子牛が上手く消化できず下痢（母乳性白痢）を引き起こす原因の一つです（図2）。

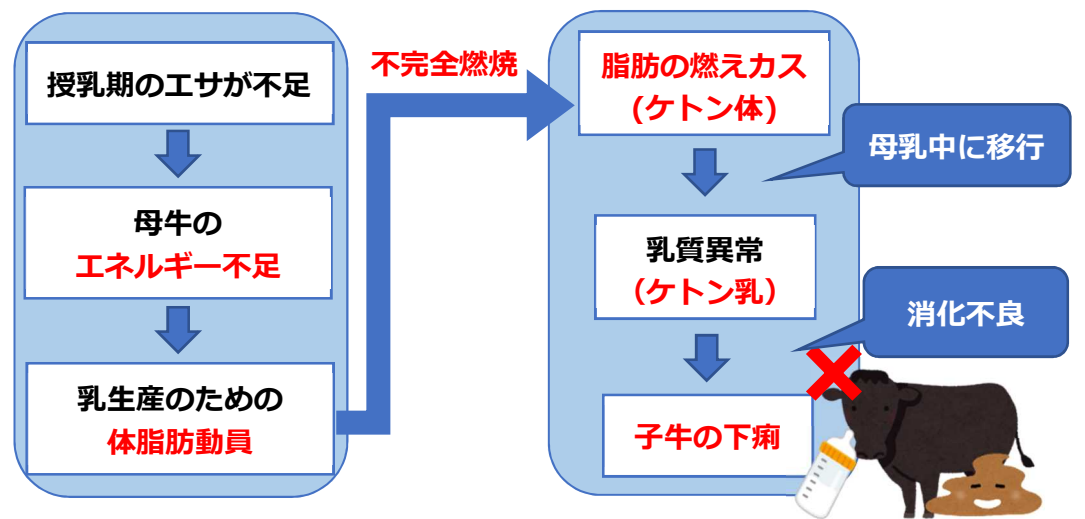


図2 母乳性白痢が起こる仕組み

4. 母乳性白痢を防ぐためには...

子牛が非感染性の下痢をした農場において、母牛のエネルギーが充足するように飼料給与内容を改善したところ、子牛の下痢発症率が半減したと報告されています（岡田，東北家畜臨床研誌22，1999）。この報告から、母乳性白痢を防ぐためには、母牛のエネルギーをしっかりと充足させ、質の良い母乳を子牛に飲ませることが重要であると考えられます。

一般的な母牛管理として、授乳期では維持期より濃厚飼料を+2kg給与することが目安とされています。ただし、これはあくまで目安であり、母牛の産次数や体型、季節に合わせて給与量を調整し、確実に母牛のエネルギーが充足されるようにしましょう。もし、哺乳中の子牛に下痢症状が見られる場合は、母牛のエネルギーが充足されているかどうかチェックし、母牛の飼料給与内容を見直してみてもいいでしょうか。

<まとめ>

- ・繁殖ステージの中で、**授乳期が最も養分要求量が高**なります。
- ・授乳期に母牛が**エネルギー不足**に陥ると乳質異常となり、**母乳性白痢の原因**になります。
- ・授乳期は維持期より濃厚飼料を+2kg給与し、しっかりと**エネルギーを充足**させましょう！